

山と水

私のおじいさんは村で山仕事をしている。私がおじいさんといっしょに山へ行くと、水がとても冷たい川や、岩と岩のすき間から流れ出しているわき水などが見られた。私はその水がどこから流れ出しているのか疑問に思った。

山には、それを作る土などが洪水や濁水などを起こりにくくする働きや、水をきれいに浄化したりする働きがある。私の家の近くの山に行くとき、きれいなわき水がチロチロと音をたてながらわき出ている。その水を家へ持ち帰って飲むと、水道水よりも甘みがあって、後味がとてもさわやかだった。味があるイメージのない水でもこんなにおいしいのかと、感心した。山は水をきれいにする自然のろ過装置だなどと、その偉大さに改めて感

黒滝村立黒滝中学校 二年

植田 倫子

動した。ところで、そのわき水はどこからわき出ているのか。おじいさんに聞いてみた。山の地表に太陽の光があたつて小さな草がたくさん生えてくる。そして雨が降ると、水が草のくきをつたって地中の中へとしみわたっていく。さらにその後、霧が起ると草についているつゆがまた地中にしみわたって、山のふもとに流れ出すと教えてもらった。

ある日、大雨が降って家の前の川がザーザーと音をたてた。茶色くなった水が勢よく流れ、増水していた。いつも通っている通学路でも少し土砂がくずれていて、車が通りにくくなったりした。私にとって雨はジメジメしている。外にも行けないから、嫌なイメージがある。でも、雨は農作物にジョウロやホースなどで水をやるよりも、ずっとよくて、

畑の土の中にたくさんしみこむので、おじいさんにとつて雨が降ることは、とてもうれしいことらしい。なので、おじいさんは日照りが続く夏に、雨降れ！雨降れ！とずっと言っている。去年はおじいさんの願いもかなって、雨がたくさん降ったので、豊作となった。毎年家族が楽しみにしているトマトやトウモロコシやキュウリなどがたくさん実って、どれもとても水々しくおいしくいただいた。最近では地球温暖化という言葉が耳にすることが増えた。気温が上昇して、世界の砂ばくがどんどん広がっているらしい。水を求めてたくさんの人々が数少ないオアシスの近くに住んでいる。しかし、その生活はとても厳しいものである。水をくみに行くのに何十キロメートルもの道のりを歩いたりとても大変である。こんな生活が日本では考えられるか。国土の四分の三が森林である日本では水がなくて困るといふことは、ほとんど無いと思う。だからといって水を使い過ぎると、いつか日本も、砂だらけの砂ばくに変わってしまうかもしれない。そうならないためには、どういう工夫をすれば良いのか。私の家では、

お風呂の中に人が入るとあふれてしまう水を洗面器に入れて、体を洗う時に使ったりして少しでもむだ使いが少なくなるようにしている。その他にも私達の身のまわりにも、節水する工夫はたくさんあると思う。夏、暑くなると私達はよく川に入る。川の水はとても冷たく、清らかで魚がたくさん泳いでいる。町の人ばかりきれいな水の川を求めて毎年村へとやって来る。こんなきれいな川で毎日のように泳げる私達はとてもぜいたくで、めぐまれた環境にある。その恩返しとして、私達川上の人間は、この清らかな水を守るという意識を持つことが最も重要であると思う。人が生きていくのにはかかせない水なのだから。